

保健科学分野のビジネスモデルに関する学際的研究

Interdisciplinary research on business model innovation in healthcare field

研究代表

見 玉 充

Kodama Mitsuru

所 管：特定プロジェクト

研究期間：平成28年度～平成29年度

研究代表者：見玉 充（本学教授）

研究分担者：高橋 淑郎（本学教授），所 伸之（本学教授），岡田 太（本学教授），
東 るみ子（本学准教授），秋川 卓也（本学専任講師）

研究の目的・概要

グローバルレベルで拡大しつつあるe-healthcareなど保健科学分野のサービスは、医療、福祉、保健、保険、ICT、イノベーション、環境経営（特にスマートシティ）など異なる学際的な専門分野で大きな関心を集めている。e-healthcare成功のためのビジネスモデルの探求には学際的研究からの知見が必要である。本研究はe-healthcareというイノベーションの生成プロセスの解明とビジネスモデルとして成立する学術的要件並びにインプリケーションを提示する。

本研究に対する問題意識は、『Competing Through ICT Capability』（Palgrave:UK）（Chapter 7: ICT Innovations in Healthcare and Welfare）の中でe-healthcareは単に医療や技術開発の問題だけではなく、より広い意味で多様なステークホルダー〔患者・健常者～医療機関～企業～行政〕がICTを活用し地域全体のQOLを改善すべきというさらに奥深い探求が必要である旨を認識したことが背景にある。

OECD（2013）は、「今日の医療は受け身かつ間欠的であり、その中心は疾病である。新しい医療は事前対応的かつ予防的で、生活の質や福利を重視したものでなければならない。現在の医療は、病院と医師を中心とするものである。このモデルを患者中心のアプローチに変え、家庭にしながら多くのケアが受けられるようにして、より広い範囲の社会的ネットワーク（個人の健康と福利に対する重要な貢献者としての家庭および地域社会）を含めるようにする必要がある。個人の条件、ニーズ、状況の違いに応じたケアが必要であり、健康、病気、健康の回復を形作るすべての要因への対処において、患者をパートナーとして関与させる必要がある」（p.34）という声明を提示している。

そして、OECD（2013）は加盟国におけるe-healthcareの発展状況に関して、今後の主要な課題の1つとして、有意義なビジネスモデル（e-healthcare）の育成を挙げている。そしてe-healthcareサービスがその受け手とコスト負担者にもたらす利点について、単に医療

上の利点だけでなく、より学際的で専門性の広い文脈で考える必要性があることを示唆している。このような背景の下、現在、ICTの利用形態は多様な領域に拡大しており、コミュニケーション支援、生きがい創出支援、社会参加支援、ハンディキャップの補助、介護・保健・医療等の業務支援といった内容に用途が急速に拡大している。

特に携帯情報端末とクラウドコンピューティングという技術は、在宅医療、介護福祉、各種社会活動支援、健康づくり、健康増進、ヘルスプロモーションといった、医療～福祉～保健という人間にとって重要な「e-healthcare cycle」を円滑に推進する重要なICTプラットフォーム (Kodama, 2013) となりつつある。

本研究ではこれを「e-healthcare system」と命名し、このような「e-healthcare system」を構築するための顧客を含めた多様な組織・企業・産業における「ビジネスモデル」に関し、異なる専門分野（イノベーション論、医療福祉論、保険論、環境経営論、オペレーションマネジメント、ICTなど）を横断した学際的な理論研究と実証研究を行う。平成28年度は本研究の理論的フレームワークの構築作業に集中した。この結果、本研究では新たな理論的コンセプトである「Collaborative Dynamic Capabilities」というフレームワークを導出した。企業内外を横断した企業間のstrategic collaborationから生み出される「Collaborative Dynamic Capabilities」は、Co-creation & Co-evolutionのプロセスを促進し、新たなビジネスモデルとしてのvalue chainsを構築していくことにつながるという命題の精緻化と実証研究に向けて今後取り組む。

そして「顧客（患者・健常者）～サービス提供組織（医療機関など）～ICT企業（技術提供）～行政（政策・制度）」という「ステークホルダー間の整合性モデルによるビジネスモデル」の実現というオリジナルで新たな理論的かつ実践的コンセプトを提示することで新たな学際的研究領域を切り開くことを目標とする。

OECD (2013). *ICTs and the Health Sector: Towards Smarter Health and Wellness Model*. OECD, Paris.

Kodama, M. (2013). *Competing Through ICT Capability*, London, UK: Palgrave Macmillan.

活動経過報告（平成29年度）

平成29年度は、研究論文作成に向けた文献研究および事例・定量研究を行った。大学病院や医療サービス事業者などの組織、グローバルビジネスを展開するICT企業や総合商社、さらには医薬品業界、行政組織を取り上げ、これら施設研究や企業研究を集中的に行った。さらに、インタビュー内容や社内外資料を参考にして、前述した「Collaborative Dynamic Capabilities」に関わる詳細なケースを作成した。ケース作成に当たっては、前年度に導出した理論的コンセプト（命題・仮説）の内容に関して、詳細な分析と考察を反映した。そして複数の事例研究のクロスケース分析を通じて共通的な知見を導出し、導出された理論的フレームワークの精緻化に取り組んだ。そしてさらに絞り込まれた仮説検証を現在実施しつつある。

特に「Collaborative Dynamic Capabilities」を発揮して、施設や企業などがいかなるe-healthcareのサービスを実行し、ビジネスモデルとして成功（あるいは失敗）している

のか、などの因果関係（あるいは相関関係）を明らかにすることが最終的な研究目標となる。そして研究全般の考察と新たな学術的および実践的インプリケーションを導出する。また同時にこれまでの研究成果を取りまとめ、海外発信に向けて、英文モノグラフである「*Collaborative Dynamic Capabilities for Service Innovation: Creating a New Healthcare Ecosystem*」(英国Palgrave Macmillan)の出版に向けて、各自が論文原稿の執筆を行った。以下が本書のChapter構成となる。

「*Collaborative Dynamic Capabilities for Service Innovation: Creating a New Healthcare Ecosystem*」

[Contents]

Notes on contributors

List of Tables

List of Figures

Preface and Acknowledgements

- 1 Collaborative dynamic capabilities - The Dynamic capabilities view
Mitsuru Kodama
- 2 Service Innovation through Collaborative Dynamic Capabilities - A Systems Approach
Mitsuru Kodama
- 3 E-healthcare service innovations - in depth case studies in Japan
Mitsuru Kodama
- 4 Research on Quality Improvements and Cost Reductions in Healthcare - Discussion on Accountable Care Organizations (ACOs) from the Perspective of Collaborative Dynamic Capabilities and Leadership
Toshiro Takahashi
- 5 Realization of a Health Support Ecosystem Through a Smart City Concept: A Collaborative Dynamic Capabilities Perspective
Nobuyuki Tokoro
- 6 Changes in business model through collaborative dynamic capabilities in insurance company's use of IT (InsuaTech) in the medical and health sectors
Futoshi Okada
- 7 Telemedicine System Developments through Strategic Collaboration between Industry, Government and Academia
Rumiko Azuma and Mitsuru Kodama
- 8 Pharmacy Service Innovation from the Standpoint of Collaborative Dynamic Capabilities
Takuya Akikawa
- 9 Building healthcare ecosystems through strategic collaboration across different industries

Mitsuru Kodama

10 Boundaries Synchronization and Capabilities Congruence

- Discussion and implications

Mitsuru Kodama

11 Conclusions and Issues for Future Research

Mitsuru Kodama

Index

本書のドラフト原稿は英国Palgrave Macmillanに今年1月中旬に研究代表者により送付された。今後の予定として、出版社と外部査読者(アカデミクス)による原稿の全文レビューが予定されている。今後の活動としては、出版社からのレビューのフィードバックを受けて、原稿の修正作業が予想される。この査読プロセスが首尾よく通過すれば本書の原稿がプロダクションの段階へと進展していく。その後、proofの校正作業が完了すれば、無事本書の出版の運びとなる予定である。日本大学商学部単独での研究成果の世界発信が、人文・社会科学系分野の著名な学術出版社から可能となる。

(以上)